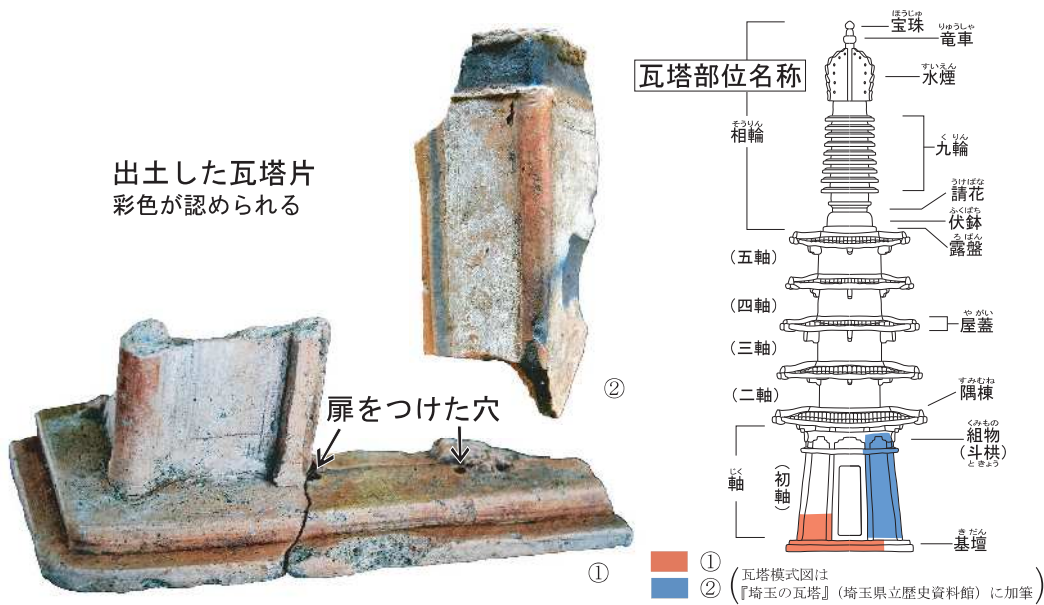
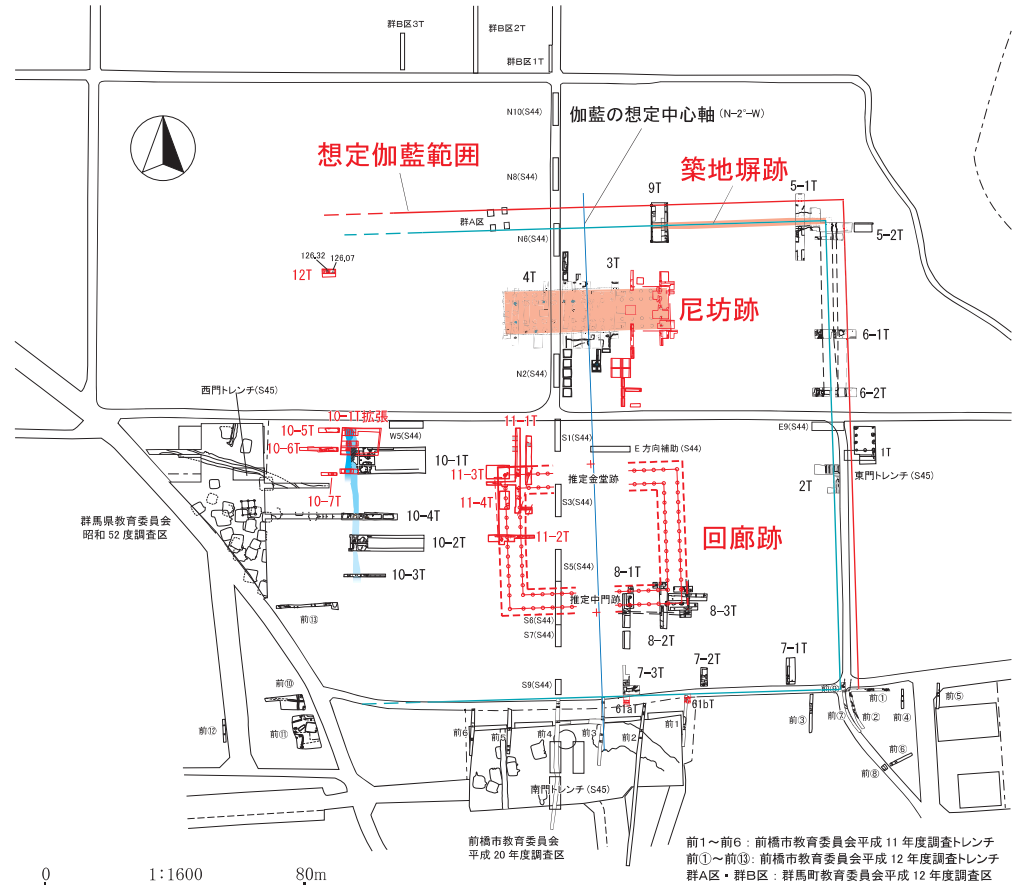


令和元年度 上野国分尼寺跡確認調査 現地説明会

高崎市教育委員会では、平成28年度から上野国分尼寺跡の範囲や内容を明らかにするための確認調査に着手し、尼坊跡の発見など大きな成果をあげることができました。

4回目となる今年度の調査は5月に着手しました。調査の結果、伽藍地中樞部を囲む回廊の規模・構造を多くの手がかりが得られ、金堂の位置も特定できました。特に原位置で残る礎石の発見などから、回廊の柱が建てられていた位置が判明し、平成29年度の調査資料とあわせ、回廊跡の規模は東西5.4m(180尺)・南北4.2m(140尺)であることがわかりました。また、回廊の上屋構造がしっかりとした基礎をもつ瓦葺き建物であったことも確かめられました。

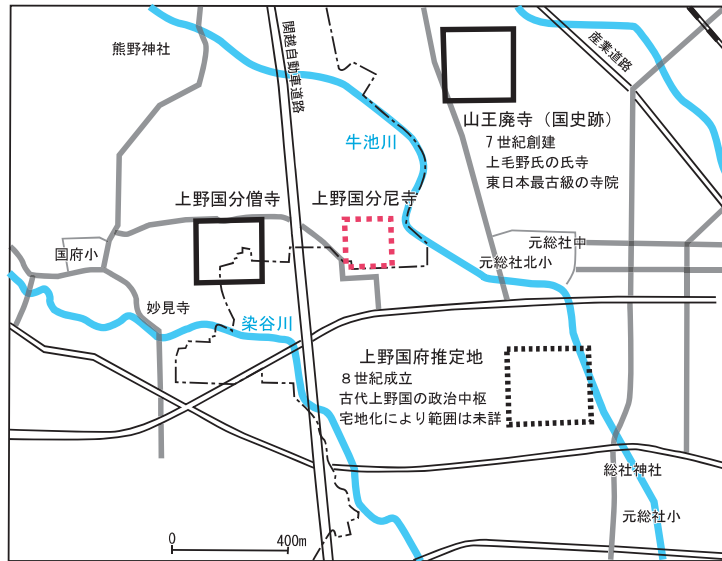
今後も、関係者の方々にご理解・ご協力をいただきながら、調査を継続していく予定です。



国分尼寺とは

奈良時代の天平13(741)年、聖武天皇の「国分寺建立の詔」により、国(現在の県に近い)ごとに僧20名をおく金光明四天王護国寺(こんこうみょうしてんのうごくのてら・国分僧寺)と尼10名をおく法華滅罪寺(ほっけめつざいのてら・国分尼寺)が建てられた。上野国分尼寺跡は、史跡上野国分寺跡(上野国分僧寺)の東に存在した。

国分僧寺・尼寺では、国を護り繁栄させる教えを説いた経典を唱えたり、暦(こよみ)や薬の知識など最新の学問についての研究がされていた。



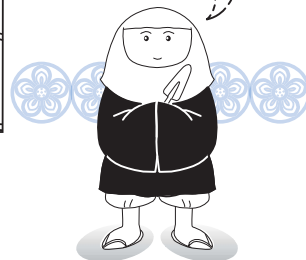
用語解説

伽藍 (がらん)
寺院の主要建物群

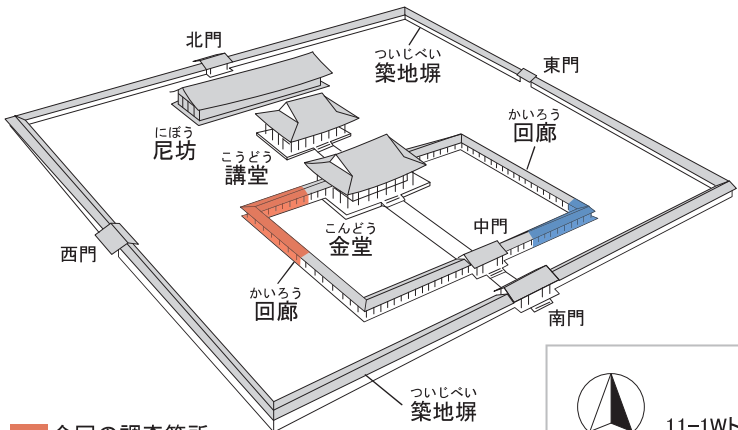
金堂 (こんどう)
本尊を安置する建物
伽藍の中心的建物

講堂 (こうどう)
経典の講義や説教をする建物

尼坊 (にぼう)
尼が日常生活を送る宿舎
僧寺では「僧坊」



上野国分尼寺跡想像図



今回の調査で出土した瓦

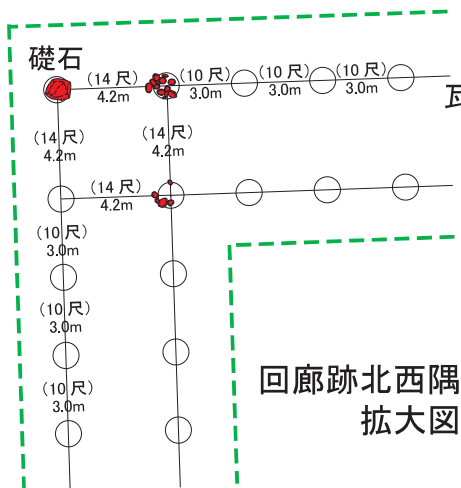


② 回廊基壇西側 瓦出土状況 (南西→)

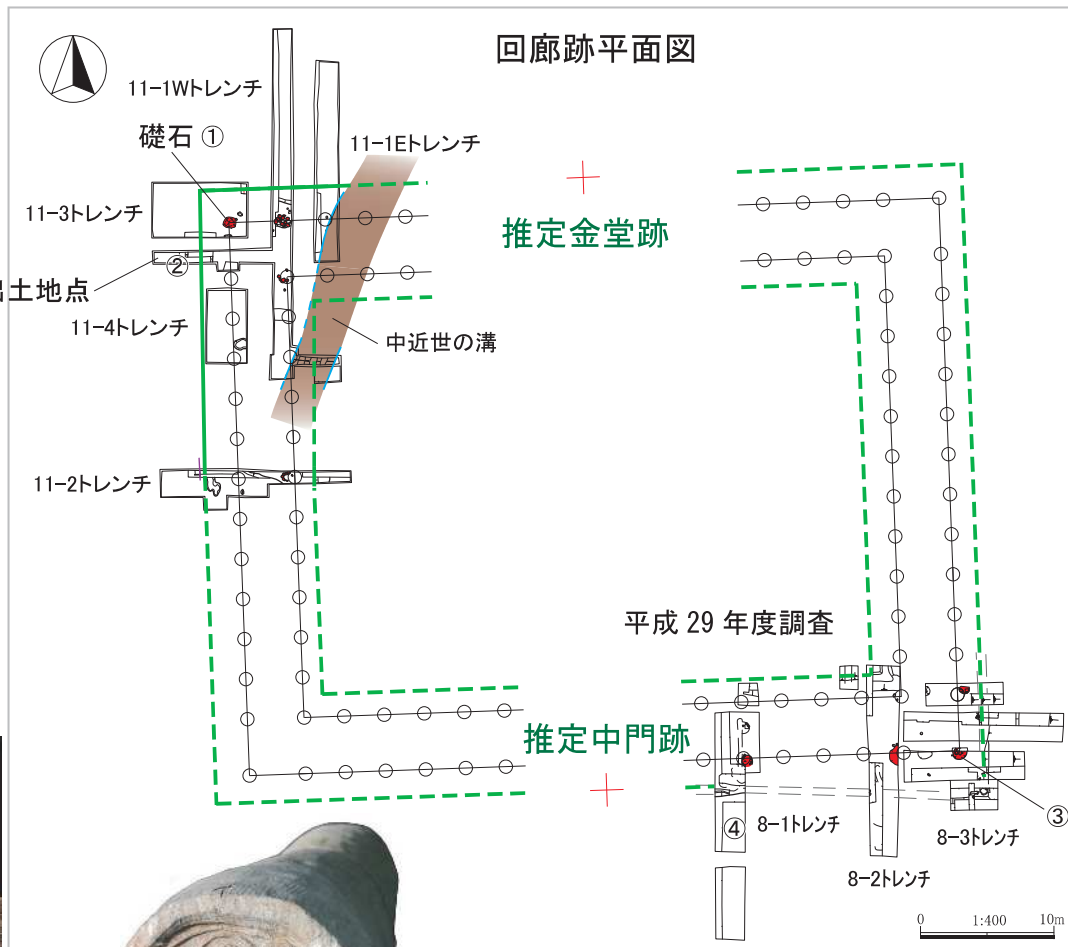


参考* 上総国分尼寺跡復原回廊

今回の調査箇所
平成 29 年度の調査箇所



① 回廊北西隅 礎石出土状況 (北西→)



今回の調査で出土した瓦



③ 回廊南東隅 根石 (東→)



④ 南面回廊跡 (南→)

